

# 第1章 現在の南丹市のすがた

## 1 南丹市の地域特性

### (1) 位置・沿革

#### ① 位置と地勢

南丹市は、京都府のほぼ真ん中に位置しており、北は福井県や滋賀県、東は京都市や亀岡市、南は兵庫県や大阪府、西は綾部市や京丹波町に接しています。面積は 616.40 km<sup>2</sup>で、京都府の 13.4% を占める大きなまちです。

地勢については、緑豊かな自然に恵まれた地域となっています。大半を丹波山地が占め、北部を由良川が、中・南部を淀川水系の桂川（大堰川）が流れ、その間にいくつかの山間盆地が形成されて、南部は亀岡盆地につながっています。年の平均気温は 13 度前後で、山陰内陸性気候となっています。

2016（平成 28）年 3 月には美山地域のほぼ全域と日吉・八木地域の一部が、京都丹波高原国定公園に指定されました。

道路については、市の北部に国道 162 号、南部に国道 9 号や国道 477 号、国道 372 号、京都縦貫自動車道が走っています。また、市内を走る各府道が国道へのアクセス道路となっています。

鉄道については、南東の京都市から北西にかけて J R 山陰本線が走っており、京都市などの通勤圏にあり、京都・園部間は複線化されています。

位置図

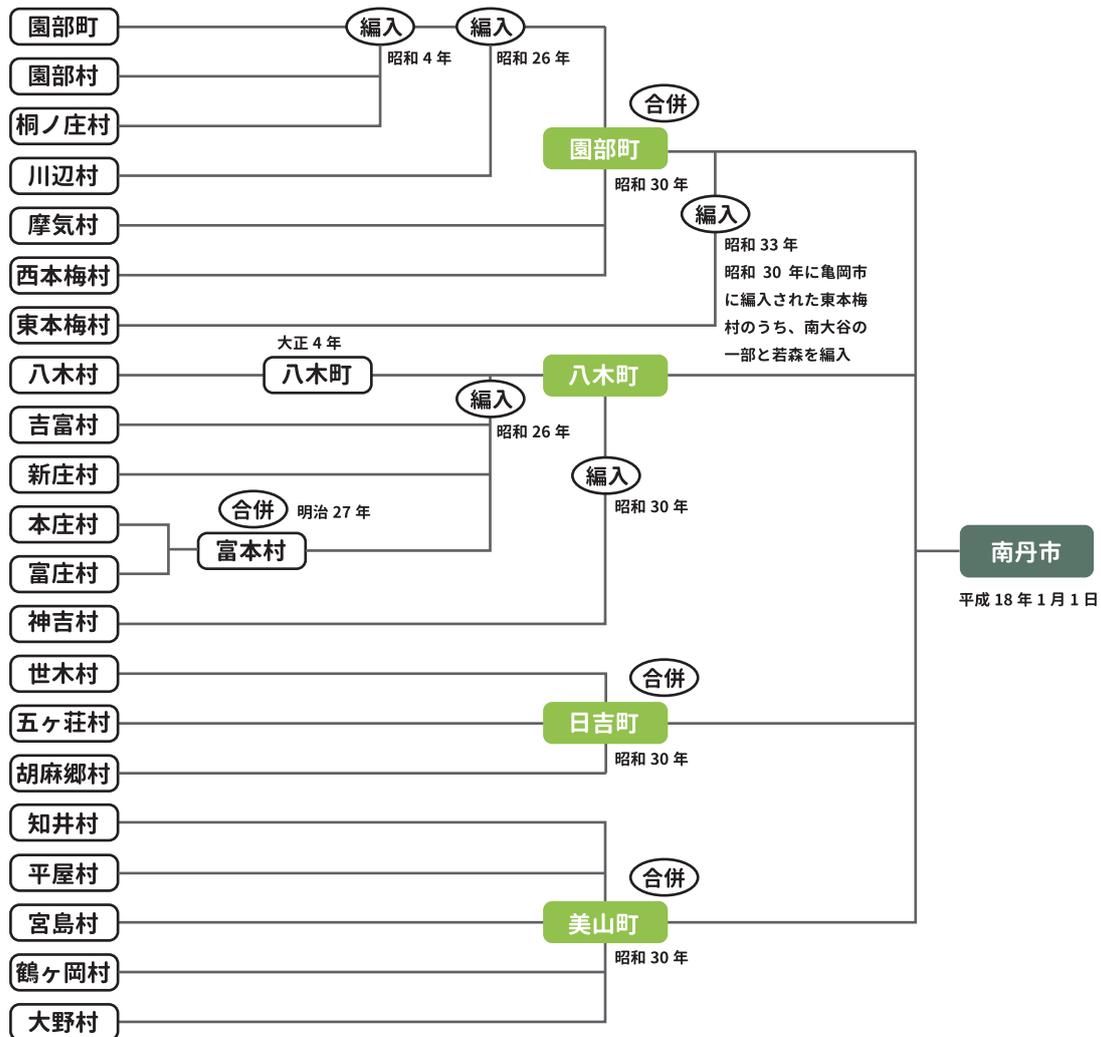


## ② 沿革

南丹地域は、京都府と兵庫県にまたがる「丹波」の南部のことで、現在の南丹市、亀岡市、京丹波町を含む地域です。古くは丹波国の国府や国分寺がおかれ、丹波国の政治・文化の中心地として丹波国を支え、各時代の権力者からも重視されるなど、我が国の歴史において重要な役割を果たしてきました。

南丹地域の多くは森林で、丹波高原と丹波山地の中に、いくつもの盆地や谷がつくられています。これらの中に城下町や村落がつくられ、山に囲まれたそれぞれの地域が独自の生活・文化・経済圏を形成してきました。また、丹波高原を平地分水界として、太平洋に注ぐ桂川と日本海に注ぐ由良川の二つの異なる水系があり、それぞれに異なる生活文化圏として歩んできました。一方、山陰街道、山陰古道、篠山街道など各方面を結ぶ街道が行き交う地域でもあり、交通の要衝として発展し、街道には多くの人や物資が行き交いました。このように南丹地域は、さまざまな人的・物的資源によって、都や日本の歴史を支え、時に歴史を動かしてきた地域です。

そして、2006（平成18）年1月1日、京都府船井郡の園部町、八木町、日吉町および北桑田郡美山町の合併により「南丹市」が誕生しました。



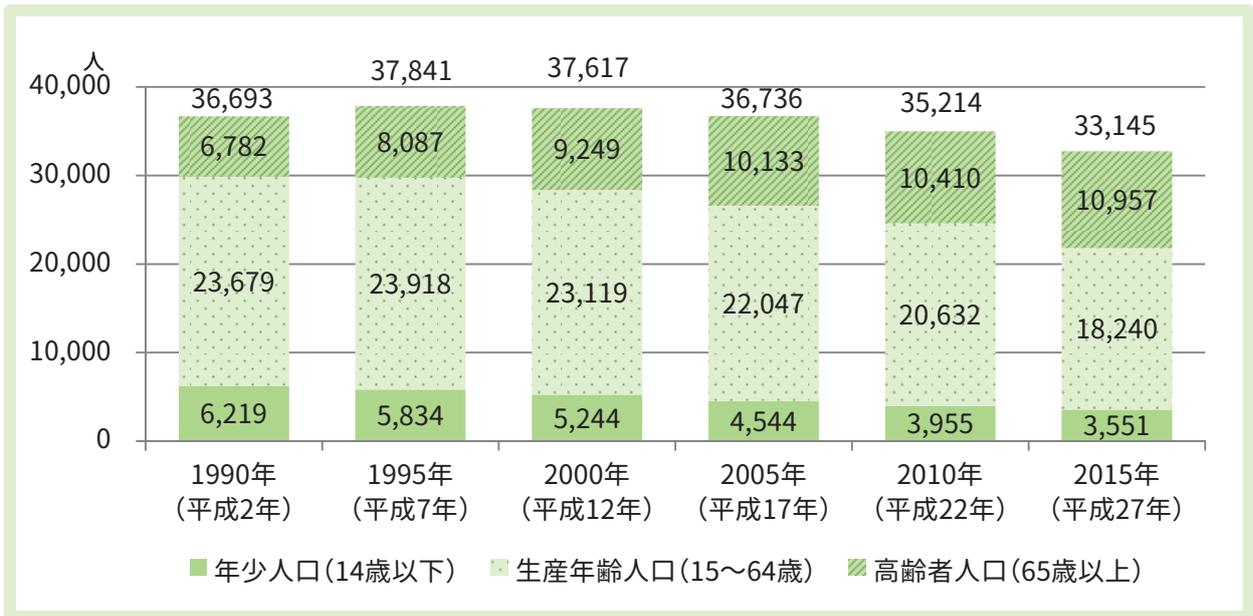
## (2) 人口・世帯の状況

### ① 人口

近年の南丹市の総人口は、1990（平成2）年から1995（平成7）年にかけてやや増加しましたが、それ以降は減少が続き、2015（平成27）年現在で33,145人となっています。

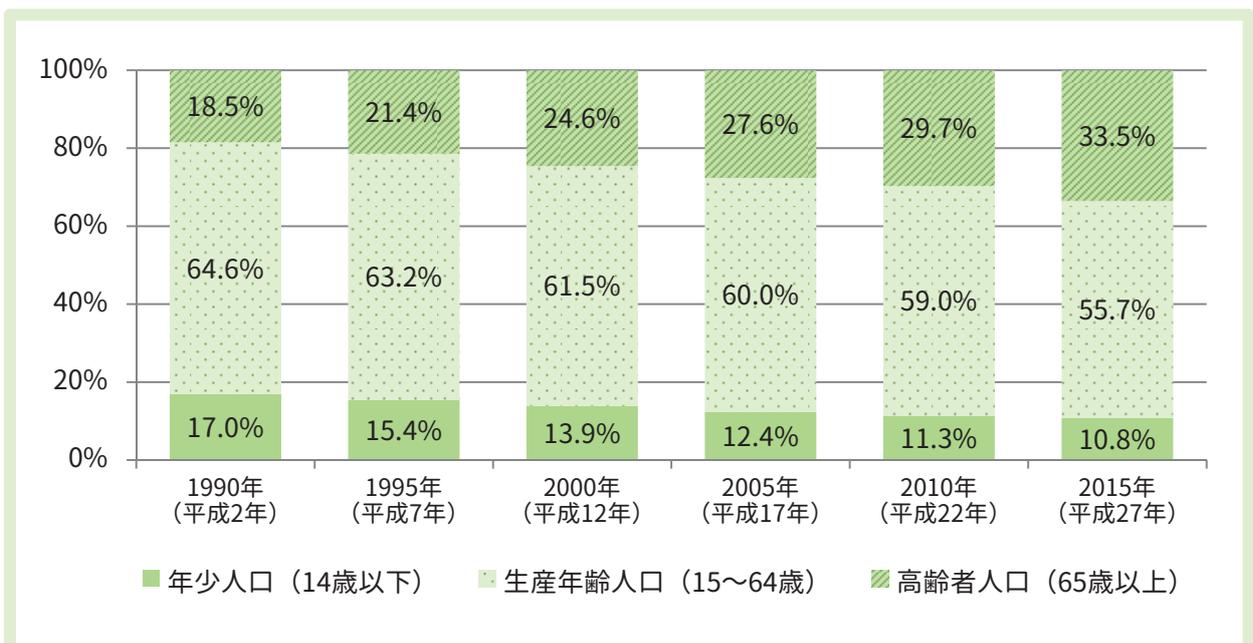
また、年齢構成の推移を見ると、1990（平成2）年は年少人口（0～14歳）が17.0%、高齢者人口（65歳以上）が18.5%だったものが、2015（平成27）年には年少人口が10.8%、高齢者人口が33.5%と少子高齢化が進行しています。

### 総人口の推移



資料：国勢調査（総人口には年齢不詳を含む）

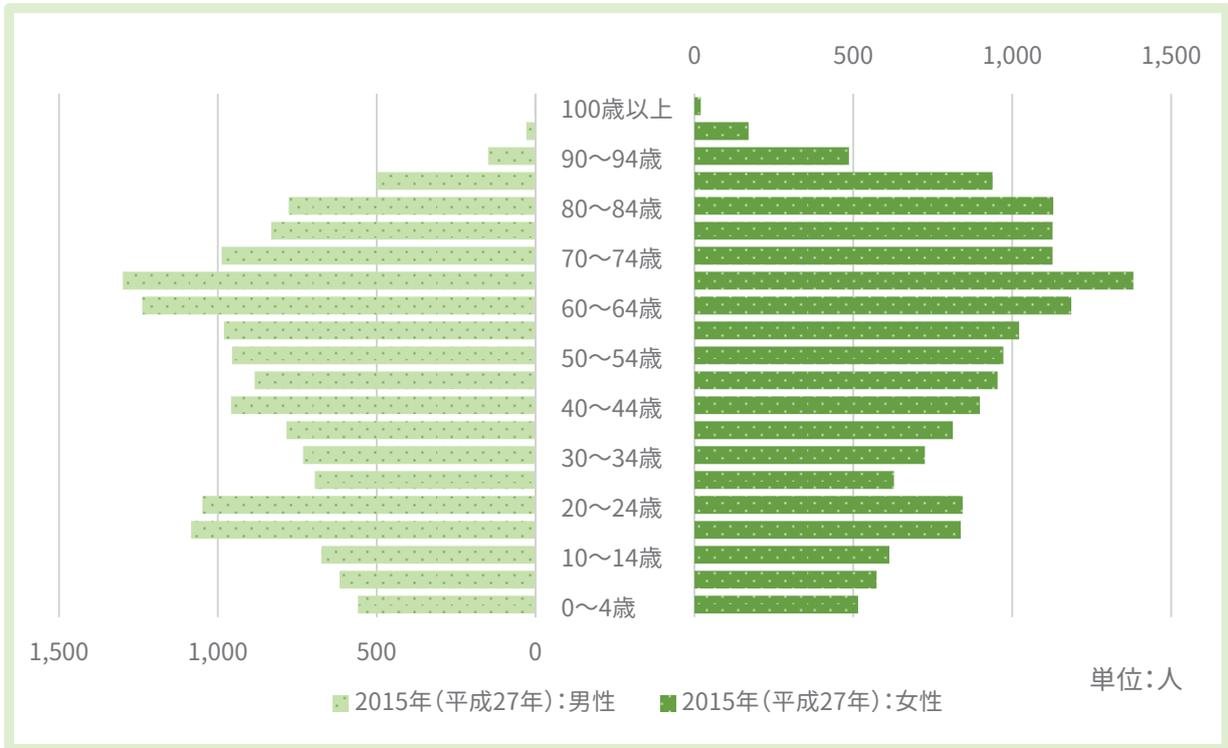
### 年齢3区分比率の推移



資料：国勢調査（端数処理の関係で、合計が100%を超える場合がある）

年齢別人口構成を見ると、60～69歳の年齢層に加え、10代後半から20代前半の年齢層で多くなっています。南丹市内に大学や専修学校、高等学校などの教育機関が多く立地していることが要因として考えられます。

### 年齢別人口構成

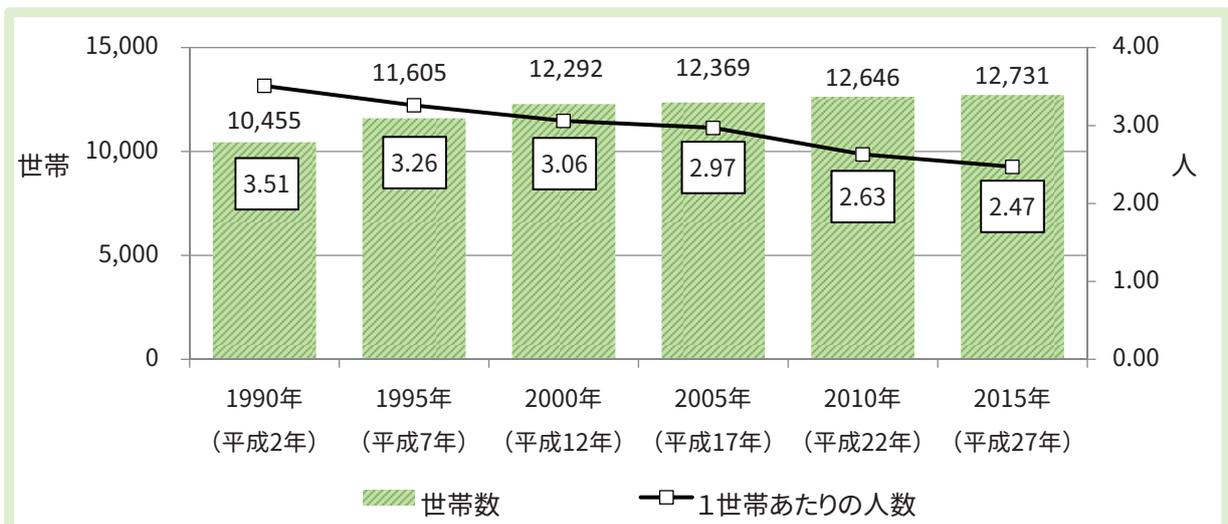


資料：2015（平成27）年国勢調査

### ② 世帯

世帯数の推移を見ると、増加の一途をたどっており、2015（平成27）年では12,731世帯となっています。一方、1世帯あたりの人数は、1990（平成2）年の3.51人から2015（平成27）年では2.47人となっており、世帯構成人数が減少していることがうかがえます。

### 世帯数の推移



資料：国勢調査（世帯数は総世帯から施設および不詳を除いた一般世帯数を表す）

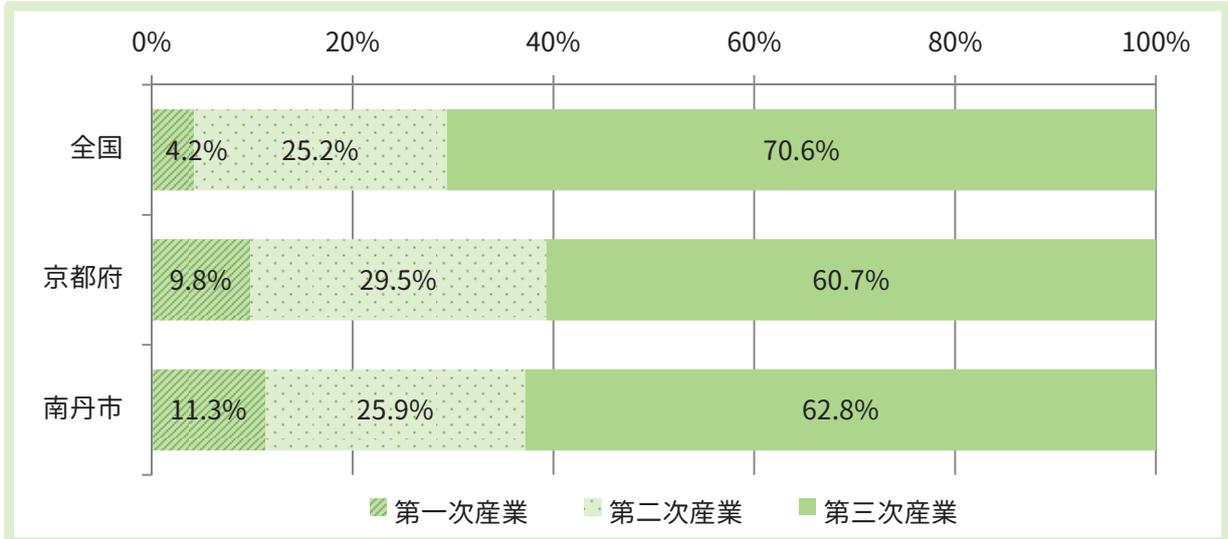
### (3) 産業の状況

#### ① 産業構造の状況

産業別就業者比率を京都府及び全国と比較すると、第一次産業の割合が京都府および全国を上回っています。

また、産業分類別就業者数では、製造業や卸・小売業、医療・福祉の分野で就業者数が多くなっています。特化係数においては、林業が9.6と非常に高くなっています。

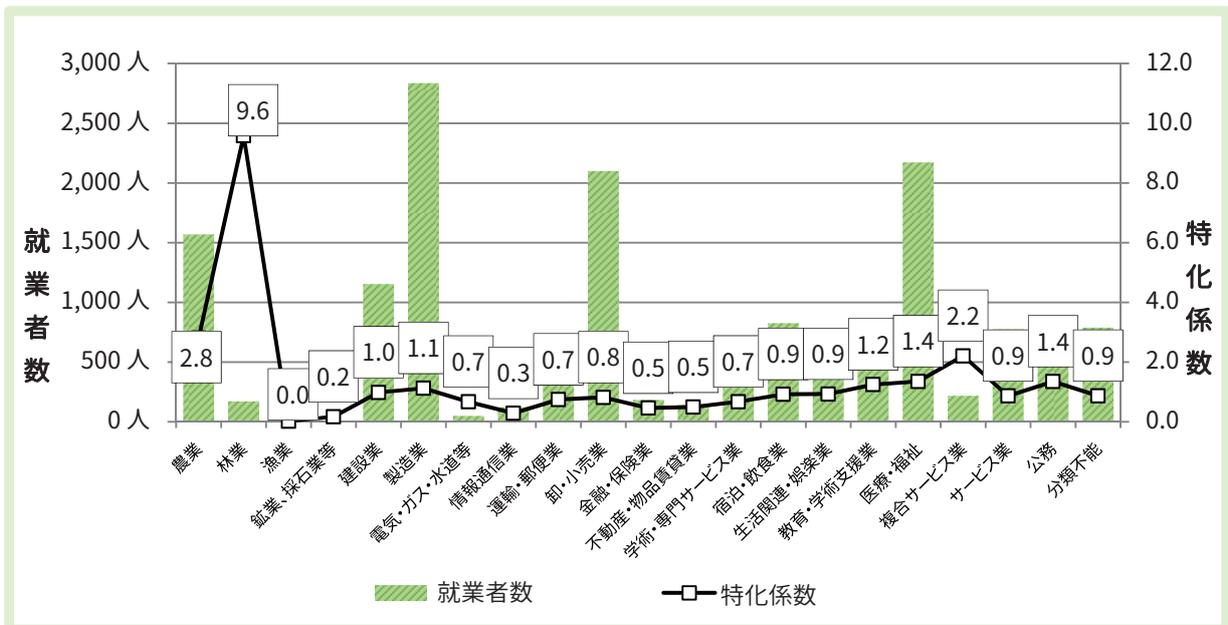
#### 産業別就業者比率の状況



資料：2010（平成22）年国勢調査

◆ 「分類不能の産業」を除いた総数における構成比

#### 産業分類別就業者数と特化係数

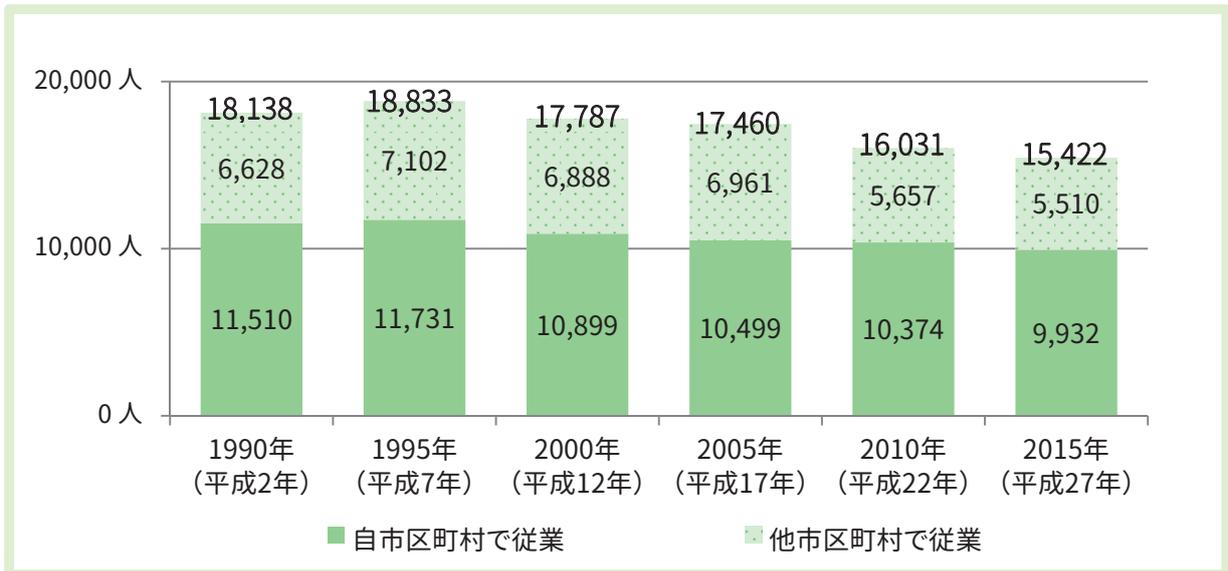


資料：2010（平成22）年国勢調査

## ② 就業場所の状況

就業場所を見ると、合併前の1990（平成2）年以降、自市区町村で従業している割合が他市区町村で従業している割合よりも高く推移しています。

### 就業場所の推移



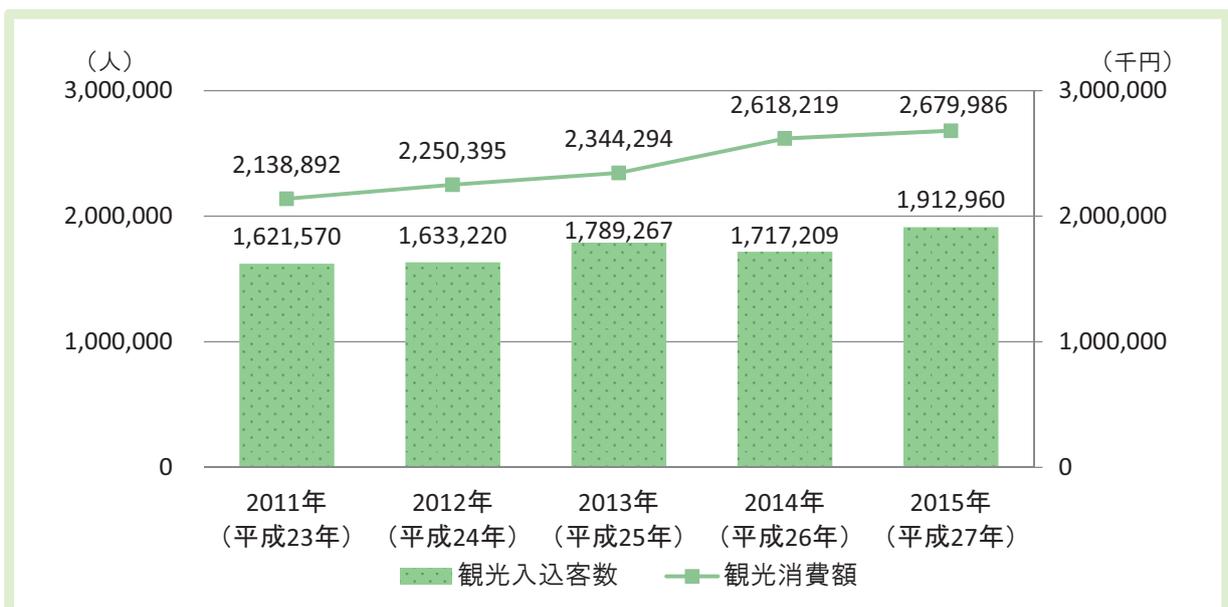
資料：国勢調査

◆2005（平成17）年までの数値は、合併前の旧4町の数値を合算したものである。そのため、「他市区町村で従業」の数値には、例えば、美山町在住者が園部町で従業している割合も含まれている。

## ③ 観光の状況

観光入込客数を見ると、2011（平成23）年以降、ほぼ横ばいで推移していましたが、2014（平成26）年から2015（平成27）年にかけて約20万人増加しています。また、観光消費額については、2011（平成23）年以降、増加傾向で推移しています。

### 観光入込客数および観光消費額の推移



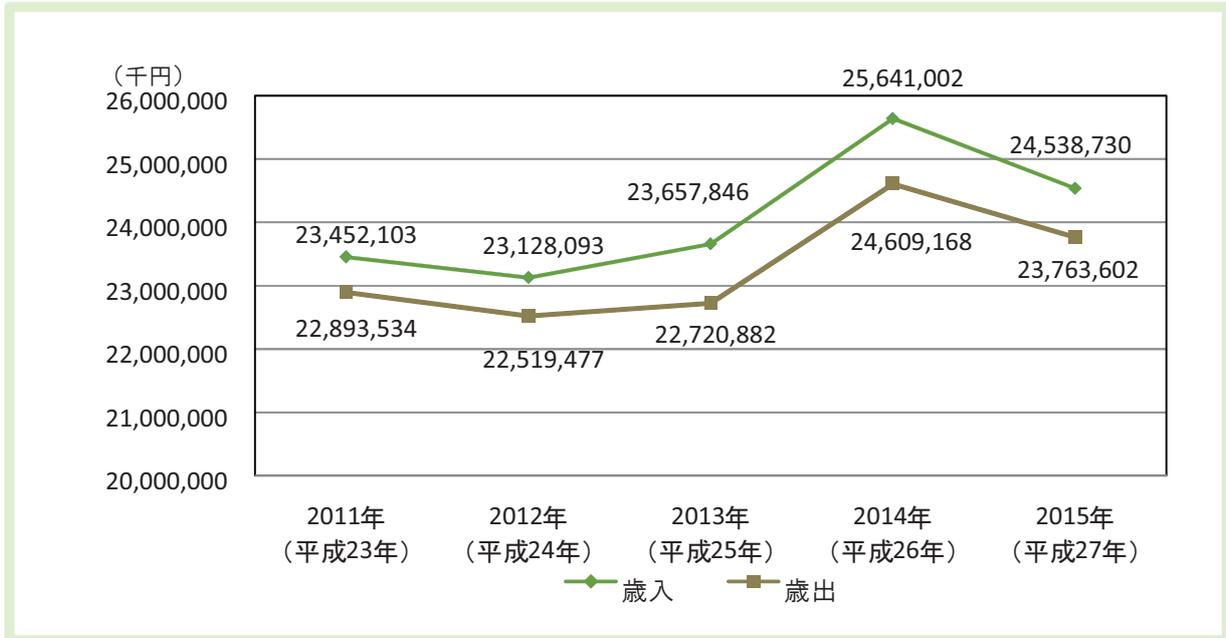
資料：京都府観光入込客調査報告書

## (4) 財政の状況

歳入・歳出決算額（普通会計ベース）については、歳入が歳出を上回り、黒字決算の状況が続いています。

また、財政健全化判断比率の指標である実質公債費比率（3カ年）と将来負担比率の推移をみると、ともに減少傾向にあることがうかがえます。

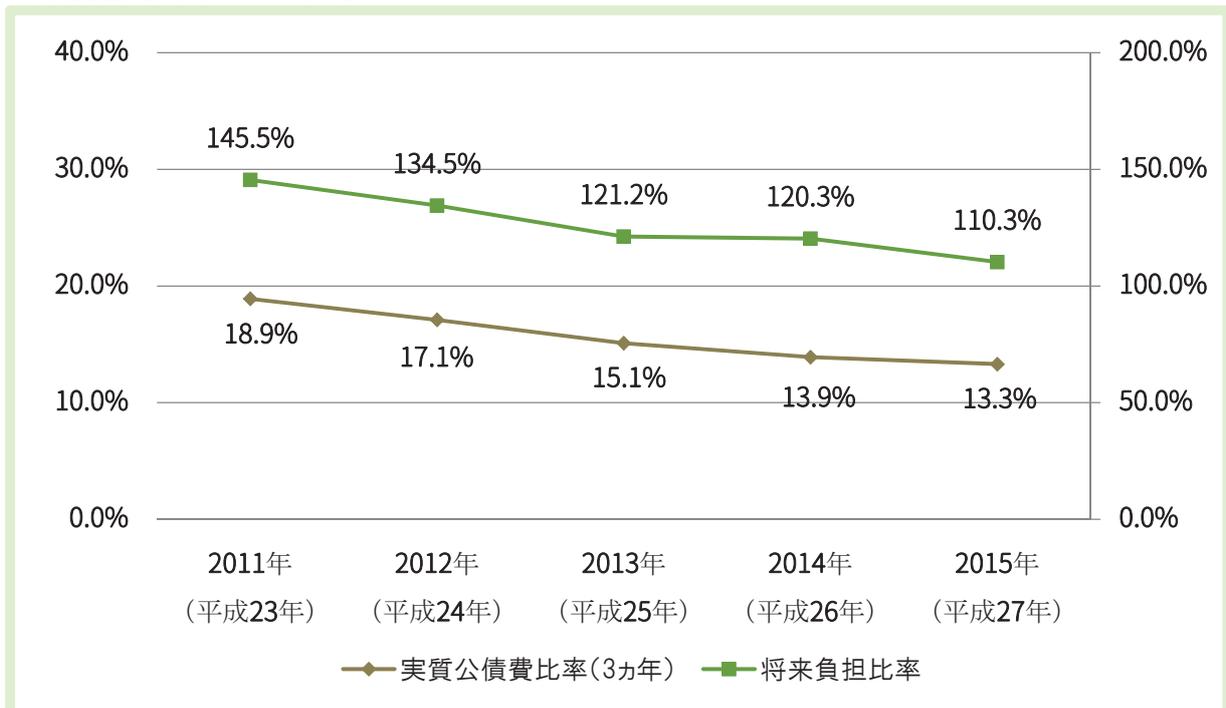
### 歳入・歳出決算額の推移



資料：南丹市決算書

◆端数処理の関係で実際の額と一致しない場合がある。

### 財政健全化判断比率の推移



資料：南丹市決算書、健全化判断比率等の状況

## (5) まちの魅力

### ① 個性あふれ魅力的な4町

南丹市は、合併前から4町がそれぞれ個性的で魅力あふれるまちづくりを進めてきました。特に、多くの観光客を惹きつける観光資源は豊富で、スプリングスひよしや府民の森ひよしなどの日吉ダム周辺施設、日本の原風景の残るかやぶき民家群、るり溪高原、清源寺の十六羅漢像などについては、南丹市の交流人口を増加させるための重要な役割を果たしています。

#### 各4町の特徴

町名	人口	観光資源	特徴
園部	16,766人	るり溪、生身天満宮など	市役所本庁がある市の中心地域。大学や専修学校など教育機関も多数あり、若い世代の人口も多い。自然公園や歴史資源が多数ある。
八木	7,615人	清源寺、京都帝釈天など	神社仏閣が多く残る地域。JR山陰本線や京都縦貫自動車道が通っており、交通の便が良い。
日吉	4,940人	日吉ダム、スプリングスひよしなど	「京都のへそ」と呼ばれる地域。スプリングスひよしには、体育館、プール、温泉などの余暇施設が充実している。
美山	3,824人	かやぶきの里、大野ダム公園など	豊かな自然があり、伝統的なかやぶき民家が残る地域。古き良き原風景を生かした観光産業に注力している。

◆人口は2015（平成27）年国勢調査結果



スプリングスひよし



かやぶきの里

### ③ 豊かな自然資源

環境省の「音風景百選」に選ばれたるり溪、芦生研究林、水源かん養機能などの重要な役割を果たす山林、また、国土交通省の「水の郷百選」にも選ばれている美山川の清流や北西から南東に流れる大堰川などの河川、特別天然記念物オオサンショウウオ、ホタル、メダカなどの生物は、住む人に潤いを与えてくれます。

美しいまちづくり条例などの取り組みにより、こうした貴重な自然資源を大切に思い、守り育てる環境をつくってきたといえます。



るり溪



芦生研究林

### ③ 付加価値の高い農業

みず菜、壬生菜、九条ねぎ、黒大豆、紫ずきんなどのブランド京野菜の産地であり、その他、美山牛乳や京都肉などもあり、これらの付加価値の高い農産物に対するニーズは、今後ますます増大することが想定されます。

こだわりの採れたて野菜は、南丹市内にある道の駅（「京都新光悦村」「美山ふれあい広場」「スプリングスひよし」）などで販売されています。



京野菜



美山ふれあい広場

### ④ ものづくりのまち

陶芸、木工、染織など、地域特性を生かした工芸品づくりが盛んで、多くの工芸家、職人が地域内外、国内外を舞台に活動しています。また、ものづくり団地「京都新光悦村」では、伝統と先端との融合をコンセプトに、ものづくり企業が操業しています。



ろうけつ染め



ものづくり団地「京都新光悦村」

### ⑤ 歴史文化・芸術のまち

日本最古の天満宮である生身天満宮をはじめ、多くの指定文化財を有し、各地域には多くの伝統行事や伝統文化が息づくなど、長い歴史で培われた多様な文化があります。また、国内外を問わず、多くの芸術家が暮らし、創作活動を行っています。



内藤ジョアンゆかりの地頭彰碑



清源寺 十六羅漢像

### ⑥ 学生のまち

明治国際医療大学、京都医療科学大学、京都美術工芸大学、京都伝統工芸大学校、京都建築大学校、公立南丹看護専門学校、佛教大学園部キャンパスなどが立地しており、学生が行き交うまちとしての特徴もあります。



明治国際医療大学



学校法人二本松学院  
(京都美術工芸大学、  
京都伝統工芸大学校、  
京都建築大学校)

## ⑦ 福祉のまち

高齢者や障がい者向けの福祉施設が比較的整備されており、福祉のまちづくりを進める環境が整っている状況にあります。このような中、誰もが安心して住み続けられる地域でいきいきと暮らせるよう、地域と事業者、行政が連携して多様な福祉サービスに取り組んでいます。

子育て支援については、子育て世代の多様なニーズに合わせ、さまざまな子育てサービスを実施しています。特に子育て発達支援センターでは、子どもの発達支援相談や児童発達支援（療育）事業を行い、子どもの健やかな成長に向けた支援を行っています。

さらに、社会福祉協議会や福祉活動団体なども、地域福祉の担い手として活発に活動しています。



子育て支援事業



高齢者福祉施設

## ⑧ 多彩な行事・イベント

大小あわせてさまざまな行事・イベントが開催されています。これらの多くは、市内の豊かな自然や歴史・文化などの資源を活用した、南丹市ならではのものです。

### 市内の主な行事・イベント（2017年度現在）

月	行事・イベント名
1月	綱引き神事<17日、大送神社（八木町）> 厄神祭<19日、八幡神社（園部町）>
2月	美山かやぶきの里雪灯廊<上旬、美山かやぶきの里（美山町）> 雪まつり<中旬、美山町自然文化村（美山町）>
3月	アマゴ釣り解禁<下旬>
4月	大野ダムさくら祭り<上旬、大野ダム公園（美山町）> 大堰川さくら祭り<上旬、大堰川緑地公園（八木町）> 春日神社 春祭り<16日、春日神社（八木町）>
5月	生身天満宮春祭り<1日、生身天満宮（園部町）> 田原の御田<3日、多治神社（日吉町）> かやぶきの里一斉放水<20日、美山かやぶきの里（美山町）> 鮎釣り解禁<5月下旬（美山町） 7月上旬（園部町・八木町・日吉町）> 美山サイクルロードレース<下旬>
6月	お田植えまつり<第1日曜、摩気神社（園部町）>
7月	田歌の神楽<14日、八坂神社（美山町）> 虫送り神事<中旬、鏡神社（園部町）> 京都美山サイクルグリーンツアー<下旬>
8月	京都南丹市花火大会<14日、八木町大堰橋一帯（八木町）> 六斎念仏踊り<16・20日、西光寺（八木町）> 牧山の松明行事<24日、普門院（日吉町）> 上げ松（松上げ）<24日、鶴ヶ岡・盛郷・芦生地区（美山町）> 京都丹波トライアスロン大会 in 南丹<下旬、八木町大堰橋周辺（八木町）>
9月	玉岩地蔵の秋彼岸法会<下旬、玉岩地蔵堂（日吉町）>
10月	からす田楽<中旬、川上神社（美山町）> 摩気神社神幸祭<中旬、摩気神社（園部町）> 夫婦神事<21日、大送神社・幡日佐神社（八木町）> 田原のカッコスリ<中旬、多治神社（日吉町）> 日吉神社の馬馳け<第3日曜、日吉神社（日吉町）> ひよし水の杜フェスタ<下旬、スプリングスパーク（日吉町）>
11月	美山ふるさと祭<3日、美山小学校（美山町）> 大野ダムもみじ祭り<中旬、大野ダム公園（美山町）>
12月	かやぶきの里一斉放水<1日、美山かやぶきの里（美山町）> 京都帝釈天 除夜の鐘<31日、京都帝釈天（八木町）>

### ⑨ 多様で活発なまちづくり活動

南丹市内では、多くの活発なまちづくり活動が展開されています。

地域に目を向けると、区（自治会）が、地域におけるさまざまな課題の解決に取り組み、市民の連帯感の向上に努めています。地域特性に応じて、消防団や子ども会、老人会などの組織もさまざまな地域活動を行っています。

美山町では、合併前から旧村単位の5地区で地域振興会が設立され、地域ニーズの的確な把握と地域活力の維持向上を図るうえで大きな役割を果たしています。近年では、他地区でも複数区にまたがる地域団体などが設立され、コミュニティビジネス※を含めたまちづくり活動を行うなど、地域自治の機運が高まりつつあります。

地域での活動のみならず、分野別の活動についても、南丹市内ではさまざまな団体が活躍しています。南丹市を中心に活動しているNPO※やボランティア団体などを総合的に支援する拠点として、南丹市まちづくりデザインセンターが設置され、2017（平成29）年4月1日現在、68団体が登録されています。NPO法人については、人口1万人あたりの団体数が府内の他の地域よりも多いことが、南丹市のまちづくりの特徴にもつながっています。

地域をサポートする人材としては、2012（平成24）年度から集落支援員が活動しています。2017（平成29）年度現在、6名の支援員が、地域や集落の実情を把握し、時代に対応した集落の維持・活性化を図るため、知見やノウハウを生かして市内で活躍しています。

2015（平成27）年度からは、南丹市定住促進サポートセンターを拠点に、地域おこし協力隊も活動しています。協力隊は、地域に入ってそれぞれ特色のある地域を盛り上げるとともに、地域情報を全国に発信し、活力のある人材を南丹市へ呼び込む活動を行っています。2017（平成29）年10月1日現在、11名の隊員が活動しています。

その他、過疎地域に居住し、地域の維持・発展をサポートするため、京都府から里の公共員が任命され活動しています。



鶴ヶ岡振興会  
木こり体験



南丹市まちづくりデザインセンター

※コミュニティビジネス：地域住民が主体となって、経営感覚を持ちながら、地域ニーズに応える形で、地域に役立つモノやサービスを提供し、地域コミュニティを元気にする事業活動。

※NPO：「Non Profit Organization（非営利団体）」の略。政府・自治体や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体。特に「特定非営利活動促進法」により法人格を認証されたものを、特定非営利活動法人（NPO法人）という。

## (6) 市民意識調査結果にみる市民の想い

本計画の策定にあたっては、市民が日頃感じている事柄や、これからのまちづくりに対する意向などを把握して基礎資料とするため、市民意識調査を実施しました。以下は結果の一部を抜粋したものです。なお、調査結果は 2012（平成 24）年度に実施した同様のアンケート調査結果と並べて比較しています。

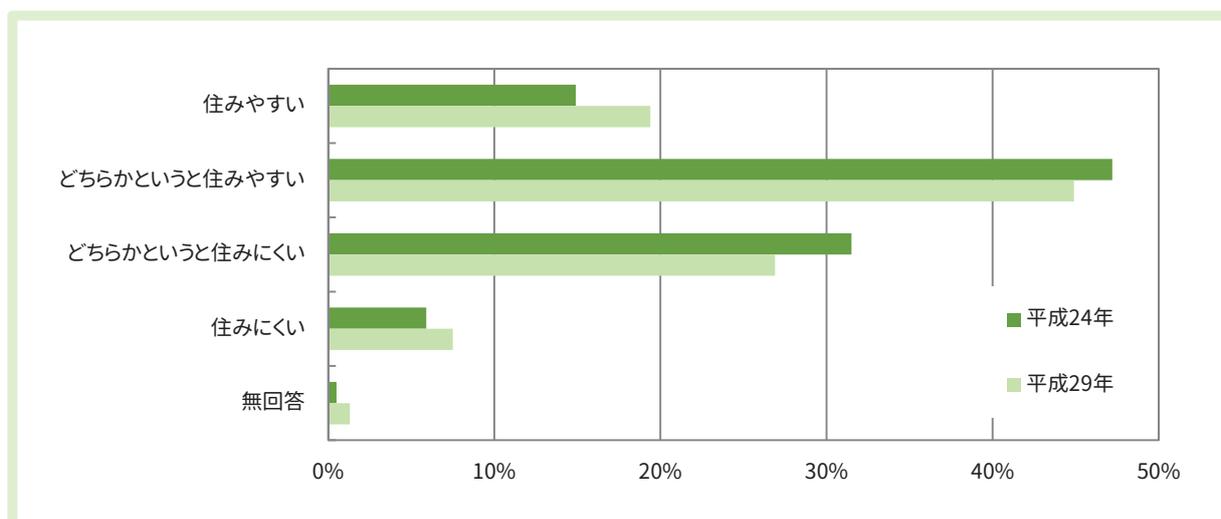
- 調査対象：南丹市に住む 18 歳以上の市民から 2,500 人を無作為に抽出
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査期間：2017（平成 29）年 4 月 28 日～2017（平成 29）年 5 月 12 日
- 回収状況：送付数 2,500 通、有効回収数 683 通、回収率 27.3%

### ① 南丹市の住みやすさについて

「住みやすい」または「どちらかというに住みやすい」と回答された方は 64.3%と、2012（平成 24）年度調査より 2.2 ポイント増加しています。

一方、「どちらかというに住みにくい」または「住みにくい」と回答された方は 34.4%と、2012（平成 24）年度調査より 3.0 ポイント減少しています。

南丹市は住みやすいまちだと思われませんか。

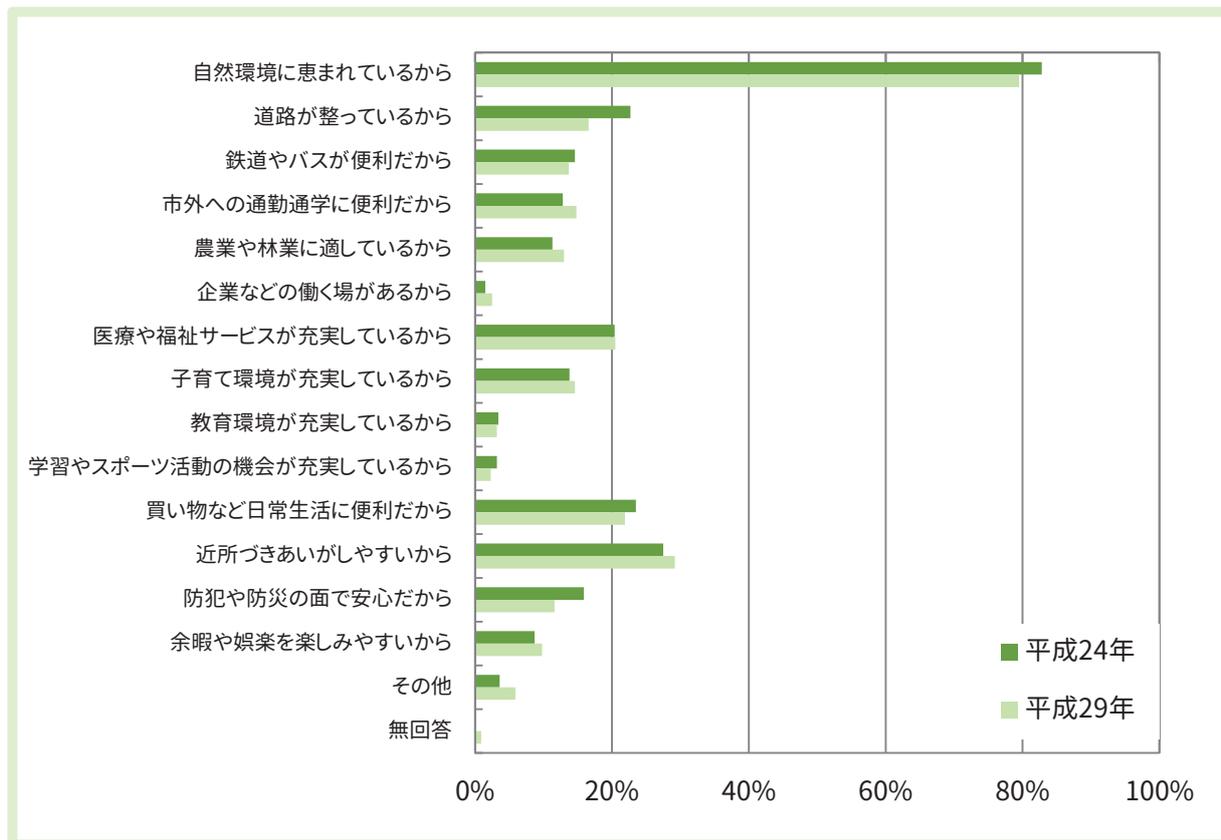


## ② 住みやすさの理由

「住みやすい」または「どちらかというに住みやすい」と回答された方（439件）の理由は「自然環境に恵まれているから」が79.5%と最も多く、次いで「近所づきあいしやすいから」が29.2%、「買い物など日常生活に便利だから」が21.9%、「医療や福祉サービスが充実しているから」が20.5%となっています。

2012（平成24）年度調査と比較すると、「道路が整っているから」、「防犯や防災の面で安心だから」が減少しています。

### 住みやすいと思う理由は何ですか。

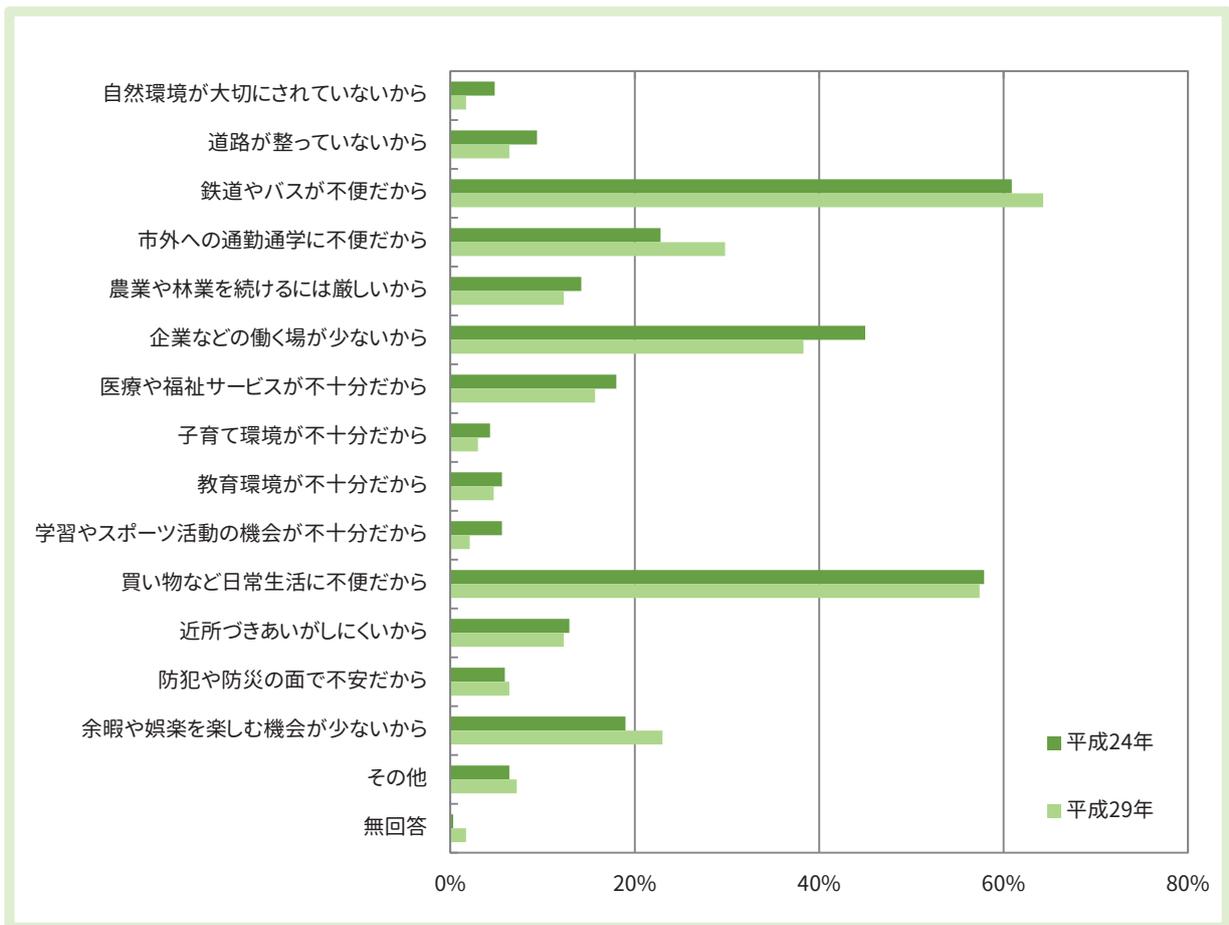


## ③ 住みにくさの理由

「どちらかというに住みにくい」または「住みにくい」と回答された方（235件）の理由は「鉄道やバスが不便だから」が64.3%と最も多く、次いで「買い物など日常生活に不便だから」が57.4%、「企業などの働く場が少ないから」が38.3%となっています。

2012（平成24）年度調査と比較すると、「市外への通勤通学に不便だから」、「余暇や娯楽を楽しむ機会が少ないから」が増加しています。

## 住みにくいと思う理由は何ですか。

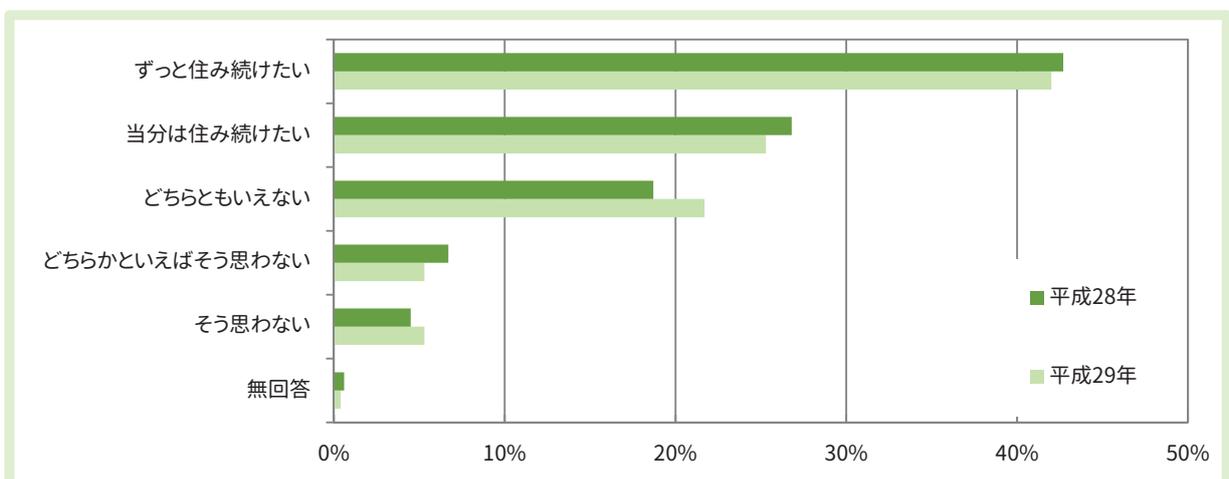


## ④ 今後の定住意向について

「ずっと住みたい」または「当分は住みたい」と回答された方は 67.3%と、回答者の3人に2人が南丹市に「住みたい」と回答されています。

一方、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答された方は 10.6%と、1割の方が「住みたくない」と回答されています。

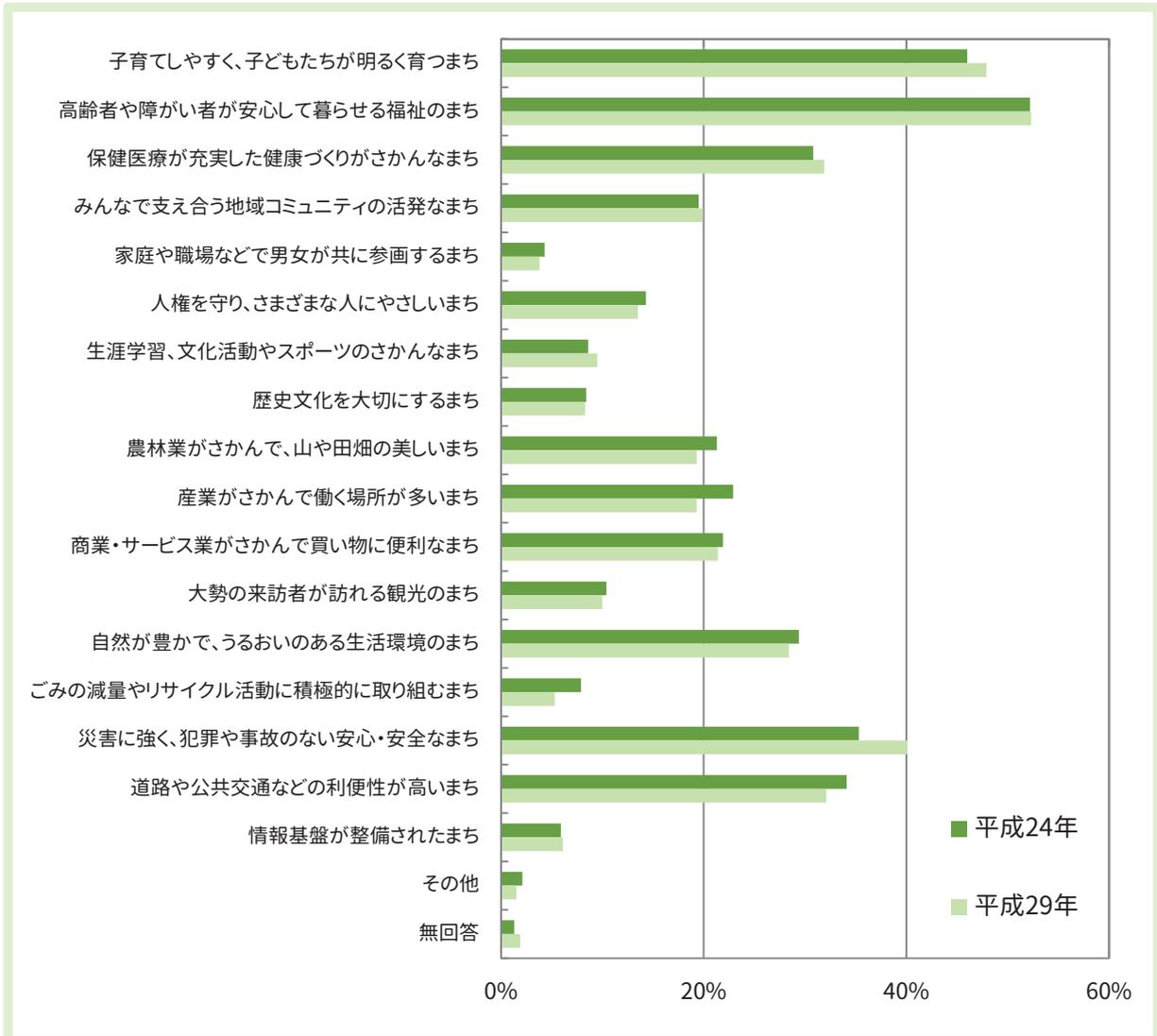
## 今後も南丹市に住み続けたいですか。



### ⑤ 望まれる南丹市の将来について

「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」が52.3%と最も多く、次いで「子育てしやすく、子どもたちが明るく育つまち」が47.9%、「災害に強く、犯罪や事故のない安心・安全なまち」が40.1%となっています。

#### 将来の南丹市をどのようなまちにしたいですか。



## (7) 市民ワークショップ結果にみる市民の思い

### ① キックオフ講演会・ワークショップ

本計画の策定にあたっては、市民の生の声をできる限り集め、計画づくりに反映させることをめざしました。市民ワークショップ（なんたんキャラバン）の機運づくりとしてキックオフ講演会とワークショップを2017（平成29）年7月2日（日）に開催しました。

当日は、はじめに総合振興計画の取り組み方針や策定状況などの説明があり、その後ワーク1として、参加者一人ひとりの現在の暮らしと10年後の理想の暮らしを、「仕事」「家族」「住まい」「休日」「近所・地域」「友人関係」などの項目に沿って発表し合いました。

講演後のワーク2では、ワーク1の結果を踏まえて、10年後の南丹市での理想の暮らしをテーマに話し合い、イメージを共有し合いました。

- 開催日時：2017（平成29）年7月2日（日）16時30分～19時
- 開催会場：南丹市役所
- 当日参加者：24名
- プログラム：はじめに（総合振興計画策定について）
  - ワーク1「南丹市での暮らしを考えよう」
  - 講演「今後の暮らしで大切なことを知る」（講師：山崎亮氏）
  - ワーク2「10年後の南丹市での暮らしを考えよう」

### 共有された10年後の南丹市のイメージ（ワーク2）

テーマ	共有された10年後の南丹市のイメージ
環境資源の活用 南丹ブランド	<ul style="list-style-type: none"><li>○南丹市のブランドイメージが確立されている。</li><li>○これまでにない働き方が実現できている。</li><li>○自慢したくなる農業がある。</li><li>○若者が憧れるかっこいい農村生活がある。</li><li>○循環する仕組みがある。</li><li>○公共施設を活用した体験交流ができる。</li><li>○都市部にはない自然体験ができる。</li><li>○外国人をターゲットにした観光展開ができる。</li><li>○必要な情報を手に入れられ、また発信できる。</li></ul>
災害への備え 保健・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"><li>○災害のとき、すぐに助け合える地域のつながりがある。</li><li>○ハイテクな里山環境がある。</li><li>○災害に負けない地域づくりがされている。</li><li>○徹底して森林の管理がされている。</li><li>○地域全体で健康を考える機会がある。</li><li>○車がなくなっても、スイスイ出歩ける。</li><li>○地域全体で子どもを育てている。</li></ul>

テーマ	共有された10年後の南丹市のイメージ
地域教育 地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学び・交流の機会がある。</li> <li>○後世に伝えていく里山文化が残っている。</li> <li>○山間部ならではの濃密な教育が受けられる。</li> <li>○地域の人が教える多機能型学校がある。</li> <li>○どこにいても挨拶される。</li> <li>○日常的に強いつながり意識がある。</li> <li>○同じ世代が交流できる機会がある。</li> <li>○幅広い世代が交流できている。</li> <li>○若い人がバリバリ活躍できる地域になっている。</li> </ul>

## ② 市民ワークショップ（なんたんキャラバン）

キックオフ講演会・ワークショップの結果をもとに、2017（平成29）年7月13日（木）～7月24日（月）の6日間、12会場（4町3回ずつ）で市民ワークショップ（なんたんキャラバン）を開催しました。

のべ95人の参加者が集まり、キックオフのときと同じく6つのテーマ（環境資源の活用／南丹ブランド／災害への備え／保健・医療・福祉／地域教育／地域コミュニティ）で話し合いを行いました。どの会場でも多くの意見やアイデアが出されました。

4町それぞれで開催したこともあり、南丹市全体に共通する意見やアイデアのほか、4町の地域特性に沿った意見やアイデアも出されました。

地域特有の意見やアイデアとしては、園部地区や八木地区では、駅前の空き店舗の活用方法やものづくりのまちとしてのブランドづくり、美山地区や日吉地区では、自然資源を生かした観光プログラムづくりや地域コミュニティの活性化策などがありました。

なお、市民の皆さんの「やりたいこと」「やるべきこと」についての意見やアイデアを活用し、本計画の別冊として「ビジョンマップ」を作成しました。

### 市民ワークショップの開催概要

日時	会場	テーマ	参加者
7月13日（木）14～16時	日吉支所	環境資源の活用／南丹ブランド	8人
7月13日（木）19～21時	美山文化ホール	環境資源の活用／南丹ブランド	7人
7月16日（日）14～16時	日吉支所	災害への備え／保健・医療・福祉	6人
7月16日（日）19～21時	南丹市役所	環境資源の活用／南丹ブランド	7人
7月17日（祝）14～16時	美山支所	災害への備え／保健・医療・福祉	5人
7月17日（祝）19～21時	八木支所	環境資源の活用／南丹ブランド	11人
7月20日（木）14～16時	美山支所	地域教育／地域コミュニティ	8人
7月20日（木）19～21時	日吉支所	地域教育／地域コミュニティ	10人
7月21日（金）14～16時	南丹市役所	災害への備え／保健・医療・福祉	6人
7月21日（金）19～21時	八木支所	災害への備え／保健・医療・福祉	7人
7月24日（月）14～16時	八木支所	地域教育／地域コミュニティ	6人
7月24日（月）19～21時	南丹市役所	地域教育／地域コミュニティ	14人

## 市民ワークショップから出た市民の主な意見・アイデア

テーマ	主な意見・アイデア
環境資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業のモデルフォレスト※・モデルファーム※の取り組みをさらに進める。</li> <li>○太陽光発電やバイオマスの※活用などにより、エネルギー自給率の高いまちにする。</li> <li>○山の恵みである木質バイオマスが日々を支えるエネルギーとして定着しているまちにする。</li> <li>○1週間ぐらい農林業などを体験できるプログラムを開発する。</li> <li>○黒大豆や壬生菜など、特産品の野菜を使った加工品の開発を進める。</li> <li>○草刈りツアーで起業する。都市部の高齢者に田舎で草刈りをしてもらうことで、農業のマンパワーの確保と健康づくり、生きがいつくりにつなげる。</li> <li>○南丹市で独自に、環境に優しい農家の認証制度をつくる。</li> <li>○狩猟の魅力を伝えて猟師を育成するハンティング学校を開校する。また、ジビエ料理の産業化をよりいっそう進める。</li> </ul>
南丹ブランド	<ul style="list-style-type: none"> <li>○廃校などを農村体験や宿泊できる施設にする。</li> <li>○市内の地域資源をつなげ、周遊性のある観光プログラムが必要である。</li> <li>○エコな乗り物を活用した里山観光を実施してはどうか。</li> <li>○南丹市では何でもないようなものや体験が、市外では価値が変わる。</li> <li>○草刈り機やチェーンソーの使い方、トラクターの運転の仕方など、田舎力養成塾を開講する。</li> <li>○アウトドア関連の学校を設立し、スポーツインストラクターを講師にする。</li> <li>○林業体験ツアーを地域と行政がタイアップして企画し、募集する。</li> <li>○昔ながらの工場見学ができるようにする。</li> <li>○助け合いのきっかけや商店街の活性化につながるよう、地域通貨を導入する。</li> <li>○商店街などの空き店舗を活用した創業・起業を支援する仕組みをつくる。</li> <li>○駅前がガランとしていて、もっと人の流れを創る工夫が必要である。</li> <li>○駅前の通りの空き店舗をギャラリーにする。</li> <li>○古民家シェアハウスをたくさんつくる。</li> <li>○農のある暮らしができる二拠点居住のメッカにする。</li> </ul>
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の住民が自分たちで地域を歩いてマップをつくる。</li> <li>○子ども向けイベントが、防災につながるようなプログラムをつくる。</li> <li>○家と避難所のウォーキングを通じて、日頃から避難訓練ができる習慣をつける。</li> <li>○近年集中豪雨が増えているので、日頃から防災意識を高めておくことが大事である。</li> <li>○消防団の担い手が不足している。消防団員を確保するため、メリットをつくってはどうか（例：団員はスーパーで5%割引）。</li> <li>○災害時の避難場所が、川の向こう側になっているので、チェックが必要ではないか。</li> <li>○電気が使えなくなったときのイメージを体験できるイベントを実施する。</li> <li>○高齢者だけでなく、若い世代にも災害時に連絡が取れる方法を考えておく。</li> <li>○過去の災害の歴史を知る機会をつくる。</li> </ul>

※モデルフォレスト：府市と連携を図り、自然環境と林業などの地場産業が持続的に共存できるよう、森を守り育てる取り組み。

※モデルファーム：地域だけで活用が困難になった耕作放棄地などについて、地域の農業者と協力しながら、企業やNPOなどの多様な団体が農業生産や農作業体験を行うことにより、農地としての保全・活用を図る取り組み。

※バイオマス：バイオ＝生物資源とマス＝量からなる言葉で、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。家畜排せつ物、稲わら、間伐材など再生可能な資源。

テーマ	主な意見・アイデア
保健・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康であることが何より基本であるため、まず健康長寿に向けた取り組みを広げていく。</li> <li>○おしゃれメイクを楽しむおばあちゃんやおしゃれを楽しむおじいちゃんを増やす。</li> <li>○「なんたん体操」をつくり、南丹市全域で普及させる。</li> <li>○ランニングやウォーキングなど、健康面に配慮した趣味の輪を広げる。</li> <li>○食育や地産地消の推進、多世代交流ができるように、地域食堂をつくる。</li> <li>○高齢者のゴミ出しや買い物などをサポートする地域ボランティアを育成する。</li> <li>○みんなで子どもを見守る地域づくりが必要である。</li> <li>○近所のおじいちゃん、おばあちゃんが子育てに協力してくれるような関係性づくりが必要である。</li> <li>○認知症になっても元気で暮らせる地域になることが大切である。</li> <li>○超高齢社会に向けて、人と人との交流や居場所づくりが必要である。</li> <li>○農業の担い手づくりと障がいのある人の活躍の場づくりを兼ねた農福連携の取り組みをさらに進め、誰もが楽しく暮らせるまちになってほしい。</li> <li>○地元医療施設のスタッフの充実に期待したい。</li> </ul>
地域教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な学びがあり、子どもたちの居場所にもなるフリースクールをつくってはどうか。</li> <li>○南丹市の子どもたちが市内他地域のことが学べるように、教育民泊を実施する。</li> <li>○コミュニティ・スクール※の制度を活用し、地域の高齢者が子どもたちに昔の遊びや技などを教える。</li> <li>○地域の歴史講座など、伝統文化を伝える教室をつくる。</li> <li>○地域のいろんな大人たちと子どもがかかわれる機会をもっと増やす。</li> <li>○生活の知恵など、農業や子育てに関することなどを若い世代に教えられる環境づくり。</li> <li>○南丹市の地域資源を生かしたカリキュラムをつくり、都会からも入学したくなるような学校づくりを行う。</li> <li>○園部地域などで小中高一貫教育を実施する。</li> </ul>
地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつは日常生活の潤滑油である。全市を挙げてのあいさつ運動を実施する。</li> <li>○虫送りなど、地域の伝統行事を復活させる。</li> <li>○子どもと一緒に参加できるイベントなどがたくさんあってほしい。</li> <li>○地元の好きなどを10個言えるようになる。</li> <li>○40歳でセカンド成人式を実施するなど、南丹市を離れた人がまた戻ってくる仕組みをつくる。</li> <li>○Uターン者やIターン者が増えて元気なコミュニティになってほしい。</li> <li>○南丹市在住の外国人と交流できる機会をつくる。</li> <li>○広域での交流が促進されるように、もっとICカード乗車券が利用できるようにする。</li> <li>○車が運転できない高齢者が家に閉じこもらないようにする。</li> <li>○電波障害を心配せず、通信速度が速く、どこでもインターネットができるように、情報通信基盤を充実させてほしい。</li> </ul>

◆P47からの「まちづくりの基本方針」ごとに、市民ワークショップで市民の方から出された主な意見やアイデアを掲載しています。

※コミュニティ・スクール（学校運営協議会）：地域や保護者、学校がめざす子ども像を共有し、その実現に向けて、ともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支える仕組み、またはその協議会のこと。

## ② 南丹市を取り巻く社会潮流

近年の社会潮流の大きな変化にともない、地方自治体を取り巻く環境も大きな転換期にあるといえます。南丹市のまちづくりの方向性を考えるうえで、こうした状況の変化を的確に把握していく必要があります。ここでは、南丹市に関係して特に重要と思われる以下の6点について、現状を整理します。

### (1) 急速に進む人口減少・少子高齢社会への対応

日本の総人口は、2008（平成20）年の約1億2,809万人をピークに減少に転じ、本格的な「人口減少時代」に突入しました。国立社会保障・人口問題研究所の中位推計では、2029年には総人口が1億2千万人を下回ると見込まれています。また、人口減少とともに人口構成も大きく変化しています。結婚に対する意識の変化にともなう晩婚化や未婚率の上昇などにより、次代を担う子どもたちの出生が低迷している一方で、平均寿命の延伸などにより、高齢者の割合は高くなっています。

人口減少や超高齢化は、労働力の減少や地域活力の低下、内需の縮小、社会保障費の増大、地域コミュニティ機能の低下など、さまざまな面での影響が懸念されており、その対策は、我が国における喫緊かつ最重要課題の一つとなっています。

国は、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、2014（平成26）年に「まち・ひと・しごと創生本部」を内閣府に設置し、地方創生に力を入れています。

南丹市では・・・

- ・ 高齢化率が33.5%で、全国平均（26.6%）よりも高い状況です。（2015（平成27）年国勢調査）
- ・ 4町の高齢化率は、園部 28.0%、八木 38.3%、日吉 39.2%、美山 45.5%です。（住民基本台帳2017（平成29）年4月1日現在）
- ・ 南丹市には限界集落が全集落の15.7%の29集落あります。また、57.3%にあたる106集落が準限界集落にあたります。（2017（平成29）年2月1日基準）
- ・ 2015（平成27）年の人口千人あたりの出生数は5.71人であり、全国平均（8.01人）よりも少ない状況です。
- ・ 2016（平成28）年の転入者・転出者はそれぞれ、1,197人・1,166人でした。
- ・ 2016（平成28）年の出生数・死亡数はそれぞれ、213人・465人でした。
- ・ 多くの障害福祉サービス施設があり、施設入所支援を行う施設は5施設あります。
- ・ 多くの介護保険事業所があり、特別養護老人ホームは市内に5施設あります。

## (2) 環境・エネルギーへの関心の高まり

化石燃料の大量消費などにより、二酸化炭素などの温室効果ガス※の排出量は近年増加傾向にあります。地球温暖化への影響は年々顕在化しており、洪水や干ばつなどの異常気象が生じており、地球環境への負荷低減が全世界共通の課題として掲げられています。

2015（平成27）年12月には、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、地球温暖化対策の新たな国際的な枠組となる「パリ協定」が採択されました。協定では、先進国も途上国も、全ての国で温室効果ガスの削減に向けた行動をとることが合意され、全世界で化石燃料依存からの転換が進みつつあります。

また、PM2.5※などによる大気汚染が深刻化しつつあり、健康への影響も懸念されています。加えて、東日本大震災における原発事故を契機に、エネルギーに対する関心が高まっており、省エネルギーの徹底的な推進と再生可能エネルギー※の開発・普及が重要視されています。

南丹市では・・・

- ・2015（平成27）年度に、「バイオマス産業都市構想」の認定を受け、バイオマスの利活用を進めています。
- ・2015（平成27）年度に、KES※・環境マネジメントシステム※の登録を受け、環境負荷低減活動について市役所を挙げて進めています。
- ・2015（平成27）年度に、環境省の「低炭素・循環・自然共生に資する取り組みを通じて地域創生を実現するモデル地域」として選定され、「南丹市モデル地域創生プラン」を策定しました。

※温室効果ガス：本来、地表面から宇宙に放出されるべき熱を吸収し、地表面を温室の中のように暖める働きがある大気中のガスのこと。

※PM2.5：大気中に浮遊する粒子状物質のうちで、特に粒径の小さな粒子（12.5 $\mu$ m（1 $\mu$ mは1mmの千分の1）以下の粒子）のことで、呼吸器の奥深くまで入り込みやすく、人体への影響が心配されている。

※再生可能エネルギー：自然の営みから半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギー。枯渇する可能性がある化石燃料などと違い、自然界の活動によりエネルギー源が絶えず再生・供給されるので環境への負荷が少ない。

※KES：Kyoto（京都）Environmental Management System（環境マネジメントシステム）Standard（スタンダード）の略。国際規格のISO14001の中核となる本質的な特徴を生かしながら用語や規格の内容をシンプルにした「環境マネジメントシステム」の規格。

※環境マネジメントシステム：事業者が運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境管理」または「環境マネジメント」といい、これらの取り組みを進めるための事業者内の体制・手続きなどの仕組みのこと。

### (3) 地域経済を取り巻く環境の変化

我が国の経済情勢は、2008（平成20）年に発生したリーマンショック後の景気後退や東日本大震災などの影響による厳しい状況から、国の経済対策の効果などにより、緩やかな回復傾向にあります。しかし、地方への経済波及は遅れており、日本全体で効果が現れるにはまだ時間が必要な状況です。

さらに、経済のグローバル化が進み、経済活動の機会が拡大すると同時に、新興国の台頭による国際競争が激化し、生産拠点の海外移転による国内産業の空洞化など、我が国を取り巻く経済環境は依然として厳しい状況となっています。

一方、訪日外国人旅行者（インバウンド）数は、近年急速に増加しており、2014（平成26）年には1,341万人（対前年比29.4%増）を数えるまでになっています。国では、東京オリンピックが開かれる2020年に向け2,000万人まで増やす考えを示しており、交流人口の拡大は、地域の活性化につながるものと期待されています。

雇用の面については、社会全般の雇用環境の激変や就業形態の多様化により、非正規雇用者が増加し、収入の格差などが生じています。また、労働力人口が減少するなか、65歳までの雇用の延長や有期労働者の無期雇用への義務づけや働き方改革を進めるとともに、誰もが光り輝き活躍できる社会をつくることが求められています。

南丹市では・・・

- ・かやぶきの里、るり溪を中心に、観光客が増えており、2016（平成28）年度の観光入込客数は約266万人、観光消費額は約29億円でした。
- ・台湾を中心とした外国人旅行者が増えており、2016（平成28）年度の外国人宿泊者数は約3,500人でした。
- ・労働人口の減少により、市内事業者の労働力確保が難しくなっています。
- ・地元商店の高齢化、後継者不足により、商工会員数が減少しています。

## (4) 安全・安心意識の高まり

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災は、我が国観測史上最大のマグニチュード9.0という巨大地震と、それにもなって発生した津波や原子力発電施設の事故によって、広域にわたって大規模な被害が発生するという未曾有の複合災害となりました。さらに、2016（平成28）年4月14日に発生した熊本地震では、震度7の揺れが連続して発生し、甚大な被害をもたらしました。また、近年、ゲリラ豪雨などの局地的な集中豪雨の発生により、各地に大きな被害をもたらしています。こうした大規模地震や集中豪雨による土砂災害、河川の氾濫などの発生を契機に、人々の防災に対する意識は急速に高まっています。

一方、高齢者や子どもが被害者となる凶悪犯罪や振り込め詐欺、インターネット犯罪、食品偽装や薬物混入など「食」の安全をゆるがす事件なども発生しており、身近な地域における犯罪への不安が増大しています。

さらに、新たな感染症などの流行をはじめ、武力攻撃やテロなどの国民保護事案の発生が懸念されるなど、日常生活のさまざまな場面で、安全・安心の確保が強く求められています。

南丹市では・・・

- ・2013（平成25）年の台風18号や2014（平成26）年の集中豪雨、2017（平成29）年の台風21号により、河川が氾濫し、甚大な被害を受けました。
- ・2017（平成29）年の大雪では、積雪により集落が孤立するなど、園部・日吉地域を中心に大きな被害をもたらしました。
- ・高浜原子力発電所、大飯原子力発電所のUPZ（緊急時防護措置準備区域）に美山地域の約80～90%が含まれています。
- ・消防団員の確保が困難となってきており、合併当初の1,640名と比較して、2017（平成29）年度は1,440名と減少しています。
- ・2007（平成19）年から2年ごとに「南丹市総合防災訓練」を開催しています（災害により開催を見送った年もあります）。

## (5) 教育環境の変化

社会環境の変化や価値観、ライフスタイル※の多様化などにもない、教育に対するニーズも多様化、複雑化しています。次代を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域社会全体で教育機能を発揮し合うことが重要です。

2015（平成27）年の中央教育審議会の答申では、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域全体で次代を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進すること、そのためには従来のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）とともに「地域学校協働本部」を全国に整備することが提言されています。

また、新学習指導要領では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくるという目標を共有し、社会と連携・協働しながら未来のつくり手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現をめざしています。その実現のためには、学校において単に知識の習得を図るだけでなく、前述のコミュニティ・スクールや地域学校協働活動を活用した「地域とともにある学校」をベースに、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を教育課程に具現化していくことが今後求められていきます。

大学については、地域再生の核としての在り方が見直されており、「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」が全国で進められています。

南丹市では・・・

- ・ 佛教大学、京都府立大学、明治国際医療大学、二本松学院、同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科と連携協力にかかわる包括協定を締結し、幅広い分野で連携協力していくこととしています。
- ・ 少子化にもない、2015（平成27）・2016（平成28）年度で小学校の再編を行い、小学校数は17校から7校となりました。同時に、各小学校ではコミュニティ・スクールの導入をめざして準備を進め、2017（平成29）年度から園部・八木の4小学校が、2018年度から日吉・美山の3小学校がコミュニティ・スクールとして「地域とともにある学校づくり」を進めています。また中学校には、地域学校協働本部を設置しています。

※ライフスタイル：生活様式。暮らし方。

## (6) 地方分権の進展と協働意識の高まり

国から地方へ権限や財源を移譲する地方分権改革が進められ、地方自治体は住民に最も身近な行政主体として、これまで以上に自主性と自立性を高めていくことが求められています。

一方、地方の財政状況は、生産年齢人口の減少にともなう税収入などの減少や高齢化の進行による社会保障費の増大など、厳しさを増すことが予想されます。また、高度経済成長期以降に整備された道路や橋梁をはじめ、上下水道、その他の公共施設などの多くは老朽化が進んでおり、今後、改修や更新などが増加していく時期を迎えることから、段階的な都市機能や社会基盤の集約化、公共施設などの更新問題への対応が必要となっています。

こうした厳しい財政状況のなかで、地方分権改革の時代に即した持続可能なまちを創造していくためには、これまで以上の行財政改革の推進とともに、協働のまちづくりを進めていくことが重要です。まず、個人でできることは自らで行い、個人ではできないことは家庭や隣近所、地域で行い、それでもできないことは行政が行うという「自助・共助・公助」による「補完性の原則」の概念が再認識されています。また近年では、概ね小学校区域を単位として、分野を横断して地域課題を自ら考え解決する、小規模多機能自治※組織を設立する動きも見られています。

一方、2015（平成27）年には公職選挙法が改正され、選挙権年齢が満18歳に引き下げられました。若い世代が、自分が暮らす地域の在り方や未来に関心を持ち、まちづくりへの参画につながるものと期待されています。

南丹市では・・・

- ・市町村合併による交付税の特例措置の縮減が始まり、財政状況はますます厳しいものになると予測されます。
- ・将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るため、2014（平成26）年に橋梁の長寿命化修繕計画を策定しました。
- ・2010（平成22）年に「市民参加と協働の推進に関する条例」を制定し、市民参加と協働の推進を図り、市民が主役の活力あるまちづくりを進めています。
- ・2017（平成29）年に下水道事業などの経営を将来にわたり安定的に維持し、必要な住民サービスを提供するため、中長期的な視野に立った経営の基本計画である「南丹市下水道事業経営戦略」を策定しました。

※小規模多機能自治：概ね小学校区などの単位で、各種地域団体や従来からの自治会・町内会が連携して、幅広い世代や多様な団体がかかわる住民による地域運営組織を設立し、行政から財源などの移譲により、自ら地域の将来ビジョンを描き、地域課題に自主的に取り組むことで、地域の主体性を発揮する施策。

### ③ 南丹市の基本課題

地域特性や社会潮流を踏まえ、南丹市の特色を生かしながら新たなまちづくりを進めるために、特に重要なものとして以下のような課題が挙げられます。

#### (1) 移住・定住について

全国的な傾向と同様に、南丹市においても人口は減少傾向が続いており、まちの活力を維持していくためには、特に生産年齢層の転入を増やしていくことが重要です。

大都市圏近郊に位置し、広域道路網や鉄道の整備・充実による交通アクセスの良さという地理的利点のなかで、良好な自然環境において比較的安価で家を構えることができるといった、南丹市で住まうことで得られる価値のイメージを、広く発信することが求められます。

また、2015（平成27）年度に策定した「南丹市地域創生戦略」に基づき、総合的・計画的に移住・定住促進を図っていますが、今後も雇用の創出や起業支援、住宅政策、子育て環境の充実など、多様なライフスタイルに応じて重層的に組合わせた取り組みを図り、選ばれるまちづくりを進めることが求められます。

#### (2) 子育て・保健・医療・福祉について

南丹市は、子育てに関する助成制度や各種保育サービスが充実するなど、子育て支援に積極的に取り組んでいます。少子高齢化や核家族化、ライフスタイルの多様化など、子どもや子育てを取り巻く環境は大きく変化しており、今後も子育て世代のニーズを十分把握したうえで、安心して子どもを産み育てられる環境づくりが求められます。

また、市民生活に必要な保健・医療・福祉サービスについては、京都中部総合医療センターや明治国際医療大学附属病院などの高度医療機能を備えた病院があるほか、高齢者や障がいのある人に関連する施設やサービスも比較的充実しています。しかしながら、サービスを充実させる一方で、介護保険料基準額が上昇傾向にあるなど、経済的負担がさらに増大することも予想されます。今後は全市を挙げて健康づくりの取り組みと意識の向上を図ることが重要です。

市域が広大な南丹市で、地域に根ざしたきめ細かなサービスが行き届くようにするためには、今後ますます地域団体などと連携した保健・医療・福祉体制の充実が求められます。

### (3) 環境・景観について

南丹市は大半を丹波山地が占め、るり溪や芦生研究林をはじめとする水源かん養機能などの重要な役割を果たす山林があります。また、北部を由良川が、中・南部を桂川が流れ、その間にいくつかの山間盆地が形成されるなど、豊かな自然に恵まれています。

また、合併後も美山町の景観行政団体を引き継ぎ、「南丹市美しいまちづくり条例」を施行して、早くから良好な景観の保全と形成に力を入れてきました。

今後も、豊かで魅力的な南丹市の自然や景観を未来に継承することが求められるとともに、環境保全型農業や森林資源のバイオマスへの利活用、体験交流型ツーリズムへの展開など、資源循環を通じた地域の活性化や観光振興とも絡めながら進めていくことが必要です。

### (4) 観光・産業振興について

合併前から4町は、観光振興やものづくり、農林水産業など、それぞれ個性的なまちづくりを進めてきました。観光スポットなどの地域資源も豊富で、日吉ダム周辺施設や美山のかやぶき民家群、るり溪高原と温泉施設などについては、南丹市の交流人口を増加させる大きな役割を担っています。今後も4町それぞれの特徴を生かし、魅力を引きあげながらまちづくりを進めることが求められます。

その一方で、4町の個性が強いため、「南丹市」という名前が対外的に浸透していない状況が、課題の一つとして挙げられます。京都ブランドや丹波ブランドも活用しつつ、4町それぞれの個性を効果的に結びつけ、「南丹市」としてのブランドを確立し、「南丹市」としての認知度の向上を図ることが重要です。

### (5) 安全・安心について

南丹市は、大小の河川や多くの山間地を持つ地形から、水不足や洪水・土砂崩れなどが起こりやすく、2013（平成25）年の台風18号や2014（平成26）年の集中豪雨、2017（平成29）年の台風21号では河川が氾濫し、甚大な被害を受けました。また、福井県嶺南地域にある高浜原子力発電所や大飯原子力発電所の半径30km圏（緊急時防護措置準備区域：UPZ）に南丹市の一部が含まれるなど、自然災害だけでなく、原子力災害、有事対応などを含むさまざまな危機に対応できる取り組みが求められます。

災害に強いまちづくりを実現するためには、行政による防災・減災体制の強化はもちろん、市民一人ひとりや地域コミュニティによる「自助」「共助」に基づく総合的な取り組みが必要です。そのため、「自助」や「共助」の考え方を広めるとともに、「共助」の基盤となるコミュニティづくりへの支援に取り組むことが重要です。